

平成24年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000327	事業の開始年月日	平成23年4月1日	
		指定年月日	平成23年4月1日	
法人名	有限会社 三上			
事業所名	グループホームみかみ			
所在地	(245-0067) 横浜市戸塚区深谷町1234-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	平成24年11月2日	評価結果 市町村受理日	平成25年3月31日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wpjDetails.aspx?JGNO=ST1491000327&SVCD=320&THNO=14100
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者に対しては一人ひとりの性格や生活状況を把握しその人らしい生活を送れるよう、その人らしい笑顔になってもらえる様支援しています。また家族支援も大事に思っています。グループホームで生活をすると決めた時からご家族の不安や心配は始まります。ご家族の話を良く聞き、コミュニケーションを大切に、安心して見守って頂けるよう努力しています。また利用者の体調管理に気を配り早期発見に努めています。入院してADLが下がってしまってもスタッフ一丸となりまたホームで暮らして行けるよう支援し続けます。実際に医師からもうホームには戻れないと言われた利用者もご本人とご家族とスタッフの力で復帰できた実例もあります。あきらめない気持ちスタッフがにはあります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成24年12月4日	評価機関 評価決定日	平成25年3月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

JR戸塚駅または大船駅からバスで20分、ドリームハイツや横浜薬科大学近くにある3階建ての「みかみ介護支援センター」内に、平成23年4月にグループホームを開設しました。
 <優れている点>
 開所してわずか1年半、利用者が持っている力を引き出し、自立した日常生活で笑顔になってもらうことを目標としています。いろいろな経験を積み重ねながら利用者第一の姿勢と実績が自信につながっています。その一つは、「生活リハビリ」として、体を動かすことに力を入れ、毎日2時間の体操と口を動かしています。3階建てを利用し、階段の昇降を職員と一緒にいき、足腰を鍛えています。二つ目は家族と一緒に最後まで見届ける気持ちです。入院した方のADL低下を心配し、毎日病院へ見舞いに行き励まし、食事介助や水分管理もあり点滴が外れ、無事退院、元気になって回復したことはスタッフ全員で支えた喜びに繋がり、家族からも喜ばれました。
 <工夫点>
 職員間では携帯メールで毎日利用者の状況を一斉送信しています。普段外に行かれない方の息抜きにガーデニングに連れ出したりしています。介護用ゲートボールでは、車いすから立って打つように支援しています。スタッフが子供を連れてくると、友達も誘ってくるので賑やかになっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみかみ
ユニット名	

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらい
	3. 利用者の1/3くらい
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有するようにしています。何か問題が起こった場合は理念を振り返り、皆で相談しながら答えを出しています。就業規則の1ページに載せ、理解してもらえよう説明し、共有しています。	理念は同一建物内の小規模多機能事業所を含めた「みかみ介護支援センター」の共通理念として、意見を出しあいまとめたものです。持っている力を引き出し、自立した日常生活で利用者が「笑顔」になってもらう支援を第一の目標としています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	回覧板等の案内で参加できる催し物には参加させてもらっています。町内の方々のご理解もいただけていると思います。オムツ・衣類などの寄付もあります。ご近所の方々顔見知りになり、声をかけていただけるようになりました。	開所以来わずか1年半ですが、地域に積極的に出かけています。ケアプラザでは法人代表が認知症や感染症対策の研修解説を行ないました。民生委員との交流をしたり、震災時に地域との相互応援を話し合ったり、研修した方3人がボランティアとなりました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に根ざしているのを感じるのは、相談件数が多くなっていることです。現在は空きがなく、お待ち頂いている方もいますが地域の方々の相談相手にもかかわっています。代表者は地域集まりのアドバイザーや講師として招かれています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議を定期的に行ない、その都度状況報告しています。推進会議では地域住民の意見も聞くことができるので、議題になった意見は参考にしています。ロコミで参加したいという民生委員さんもありました。	運営推進会議は2ヶ月ごとに開き、町内会長、民生委員、ドリームハイツの方が参加しています。話題はターミナルケア、料金改定の説明、うずくまった人への声のかけ方、災害時の安否確認の大変さなど幅広いです。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政担当者とは必要に応じ連携をとっています。特に生活保護の担当者とは現在も連携を取り問題解決に取り組んでおります。積極的に協力体制をとっています。	区の研修会への参加、介護認定などの日常的な関係のほか、グループホーム連絡会、ケアマネジャー連絡会、医療の研究会で情報交換しています。交換研修、認知症の研修での実習生を受け入れており、現在地元の中学校との交流を検討中です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体ミーティングで身体拘束を議題に勉強会を定期的に行き、身体拘束を「しない！」「させない！」「されたくない」をモットーに、ケアに取り組んでいます。スタッフも十分理解しています。	身体拘束その他の行動制限についての事例検討を行ない、徹底しています。玄関や物干し場に出るドアは常時開けています。利用者の気持ちを察し、外に出ていく人にはそっと見守ることにしています。ベットの柵にも気を付けています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	全体ミーティングで高齢者虐待防止法について勉強会を開き、理解を深めています。利用者家族に対しても、面会時に利用者への接し方を説明したり、良く話を聴いたり虐待防止に努めています。スタッフもストレスを溜めないよう、話し合いの場を作っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度について理解しており、必要と考えられる利用者や家族に勧めています。またご家族の要望などにも話し合いを持っています。問題ケースは役所や地域包括の職員に相談をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定などの際についての内容説明は、十分ご理解いただけるよう、ご利用者ご家族に書面にて説明させていただいています。管理者・ケアマネに気軽に話し合いをもてるような体制にしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員がご利用者やご家族とのコミュニケーションを大切にしており、要望などがあれば、すぐに管理者、ケアマネ相談できる体制にしています。要望があれば真摯に受け止め皆で話し合い運営に反映させます。	利用者の視点に立つためには、家族との信頼関係が大切で、誠意をもって交流しています。入院した方のADL低下を、毎日病院へ見舞いに行き励まし、食事介助や水分管理も協力し、点滴が外れて無事退院、元気になった事例では喜ばれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを開き、職員の提案、意見を積極的に取り入れ実践し、運営に反映させています。日々の気付きについては、連絡ノートを設け、風通しの良い職場をめざしています。	職員の意見は、すぐにトップまでとどき、ただちに利用者の立場に立って判断されています。全体ミーティングや「連絡ノート」も風通しを良くしています。加湿器を設けたり、クリスマスの飾りつけ用にリース作りも始めました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績を把握し、給料に反映しています。また、各スキルアップのためのインフォメーションを流し、向上心を持てるような環境を整えています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実習型雇用・中高年トライアル雇用の採用をし、実習計画に沿って指導にあたり、ケアの向上を図っています。新人スタッフには熟練スタッフが指導にあたり、個々に合った研修を勧める等スキルアップに繋げています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	主要なスタッフが小規模・グループホームなどの見学をしています。また、グループホームの研修会に参加し他事業所の職員と交流できたり、グループホーム連絡会に加入し情報収集や意見交換をしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者との信頼関係が一番大切なことです。不安なこと、要望についてなど十分にご利用者と話し合い安心して過ごしてもらおうようサポートしています。何でも気軽に話せる環境作りをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所初期段階ではホームでの生活の様子をごまめにお知らせしています。ご本人交えて話す機会をとり、不安軽減に努めています。何よりご家族とのコミュニケーションを大切に思っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初めにご本人・ご家族が何を望んでいるのかを引出し、安心して生活を送るためのケアプランを提示し、ご本人ご家族が速やかに安心した暮らしができるように取り組んでいます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お料理や家事仕事等を一緒に行なうことにより、昔の思い出を話される方も多く、職員も学ばせていただいております。おやつ作りは必ず利用者と共に皆の分を作ります。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームの特徴を活かした家族的雰囲気大切にしていますご家族との信頼関係は、共に本人を支えていく大きな力となっているものと確信しています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所者の方は、昔からの馴染みの場所・人をととても懐かしがられます。昔話に耳を傾け思い出を大切にしています。また、連絡を取りたい方には、電話などでの連絡を積極的にお手伝いしています。	家族や友人の来訪は多く、交流支援には特に気を付けています。職員はなんでも話し合える雰囲気の中から その人の昔話を引き出したり、馴染みの場所の情報を話題にしたりして、話を盛り上げています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一年余りの共同生活の中で、皆様家族のような気持ちになり、お互いに思いやり、支えあう場面も多々あり、私たちが助けられています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所後、すぐに逝去されてしまったご利用者のご家族からの相談の電話もあり、必要に応じ、適切な対応をしています。入所中のご家族との関係が大変良好なので、これからは一層親しい関係が築けると思っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常にご利用者とのコミュニケーションをとり、希望・意向を十分に把握しています。また、コミュニケーションが困難なご利用者に対しては、ご家族の意向を十分に考慮し、ご本人の生活を一番大切に、何がベストな方法なのかを、皆で検討しています。	入所当初から信頼される関係をつくり、不安なこと・要望・望んでいることを話せる環境を作っています。内容は「連絡ノート」などに記録され、職員間では携帯メールで毎日一斉送信されます。さらにこまめに家族に報告し、確認をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他業者から引き継ぐ場合も、これまでのサービス利用の経過を把握し、利用者の生活歴も含め理解を深めています。ご本人の気持ちを重視し、出来る限り生活環境が大きく変わらないよう配慮しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のきめ細かな介護記録で、一人ひとりの心身状態を把握しています。また、スタッフの引き継ぎを綿密にし、一人ひとりの日常を把握することに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしで変化する事柄などの現状を把握し、管理者・ケアマネ・職員は常に意見交換をしています。あまりお見えにならないご家族には文書で意向等を伺い、その上で利用者のより良い環境を整えるための介護計画を立てていけるようにしています。	介護計画は緊急の場合を除き、初回は3ヶ月後、その後は6ヶ月ごとに見直しています。介助の目標と課題からサービスの内容を、本人と家族の希望を話し合い、了承を得て作っています。体を動かすアクティビティにも力を入れています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録に記入しています。また、気づきや工夫を介護記録に書ききれない日もありますが、職員間での情報は共有し、その手段として連絡ノートや携帯メールを活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスにとらわれていたら、本当の介護にはならない。工夫を凝らし柔軟な支援・サービスでご利用者・ご家族を支えています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩途中近くの中学校に寄ったり、近所のスーパーで買い物したりすると、地域の方々の温かい声を頂きます。俣野公園が近くにあり、この安全で豊かな環境を日々の生活の中に取り入れホッとするひとときをこれからも楽しんでいきたいと思えます。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期受診（訪問診療）および週1回の訪問看護、24時間対応看護で、しっかりした連携がとれています。利用者・ご家族共に安心できる態勢になっています。	かかりつけ医は利用者家族の同意を得て、提携医としています。定期受診のほか、緊急時の助言や訪問診療が行われています。外科等への通院は、家族等が同行しますが、必要に応じて職員が同行して情報交換しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の変化や気づきを看護職員もしくは、訪問看護師に伝え、随時適切な指示・判断を仰ぎ、ご利用者の身体安全を第一に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所者が入院した際、地域連携室を通じて病院に速やかに情報提供しています。病院側からも入院状況及び退院に関して事前に詳細な情報提供があり、現在の連携は良好と考えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所開始時から、本人・ご家族と終末ケアについて話し合い、相互理解を結んでいます。終末ケアをした経験を活かし、事業所として出来ることの方針を示し、地域関係者と共に支援していきます。	終末期のケアについては、同一建物内の小規模事業所での経験があり、急変時の経緯と説明を行っています。急変時の記録の書き方と報告のポイントの研修も行い、備えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変があり、再度、急変時対応について勉強会を開催しました。緊急時連絡も職員全員が周知していますが、定期的な訓練も消防署の協力を得ておこなっています。具体的な応急処置は看護師の指示を仰いでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報知器の使い方の実地訓練。また、安全に避難できるように、消防職員による消防訓練を実施。利用者・職員が安全に避難できるよう定期的に開催しています。	5月の避難訓練では、自立避難より車いす利用の安全性を確認したり、消防署からは119番通報の仕方や人数の確認方法の指導を受けています。12月の訓練では、地元消防署の協力や近隣住民の参加を求め企画しています。家族とはメールアドレスを交換しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者すべての方に誇りがあり、プライバシーの確保はケアするにあたっては必須のことと認識しています。ご利用者と接するうえで一人の人格者として接し、職員にとって兄弟・親・祖父母のような存在になっています。	利用者の興味あること、できる事を尊重し、話を盛り上げるようにしています。書類は事務所に保管され、また職員の秘密保持の誓約も行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員とのコミュニケーションがとてまうまく取れており、気軽に希望などを話してくださいます。すぐに対応できることは実現しています。自己決定の支援を大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中は必ず体操や声出し等レクリエーションの時間を設けていますが、それ以外は自由にのんびりしていただくよう心がけています。希望により買い物に行く機会も多く、日々の暮らしを支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員に理髪師がいるので、定期的に髪を切ってもらっています。知人からの洋服の寄付があったり、ご家族が気を遣い持ってきてくれる等、全体的にみなさん身ざれいにしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外部委託食材を使用。利用者と共に食事やおやつ作りを楽しんでいます。毎食ほとんどの方が完食されています。配膳も片付けも自主的に協力して下さいます。	食材は、業者から調理方法や栄養素まで記載したメニュー表と材料が届けられ、職員が調理しています。利用者も食事作り・配膳・片付けなどの協力をしており、食欲もあります。飲み込みの困難な人へのソフト食も別に作っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表にて一日の水分量を把握するようにしています。また、健康状態により、とろみを要する方にも工夫しながら水分の摂取をしています。その他ソフト食にも対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後に声かけをしています。介助の必要な方には誘導、介助をし、毎食後の口腔ケアには力を入れています。また、残歯・義歯の不具合があれば訪問歯科の治療をすぐに受けていただいています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック24時間表を作り、一人ひとりの時間を把握し、排泄パターンを把握しています。なるべくトイレでの排泄をするよう、職員一同声かけ誘導をしています。	プライバシーに配慮して、同性介助など本人に適した排泄介助を行っています。毎日の体操を日課とし、おやつには乳酸飲料を出しており、便秘や下痢などにならないように体調管理を心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の多いメニューを作ってもらっています。牛乳やヨーグルト、個々に応じた服薬、また、体操を取り入れたレクや散歩などで便秘の解消を心がけています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人浴槽なので、入浴を楽しんでもらっています。「ゆっくりは入れる」とご利用者には好評です。入浴日の設定はありますが、随時必要に応じ入浴しています。好みのシャンプーやリンス、ボディークリーム等希望に応じ対応しています。	週に2回の入浴を基本としていますが、水曜日を除き毎日入浴できる体制です。入浴時は1対1で対応しています。リフト浴の設備もあり、個人個人の状況に応じ、安全な入浴を心がけています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣、その日の体調に合わせて、ゆっくり過ごせるようにしていただいています。部屋の温度・調光にも配慮し、快眠につなげています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬管理は薬局さんが一週間単位で管理しています。職員は担当を決め責任を持って服薬確認しています。ほとんどのご利用者が、服薬しているので、安心・安全なケアができています。内容把握に関しては一目で分かるようファイルにしてあります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	麻雀・トランプなどで楽しんだり、手芸のできる方には刺繍をしてもらったり、ボロ布をウエスに作りかえてもらったりしています。出来ることで一緒に楽しんでいます。利用者の中には仕事の様に洗濯を担当してくれている方もいます。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は日常的に行なっていますが、だんだん足が衰えたりして、遠くに行けなくなってきました。しかし、年中行事として行っているみかん狩りには今年も行ってきました。また希望により買い物等に対応したり、ご家族と外出したりしています。	全員が週に1回以上は外に散歩に出かけるようにしており、地元のスーパーや100円ショップにも同行しています。季節の行事として、お花見やソーメン流し、みかん狩り、近くの神社へのお参りなど、外出の機会を増やすように努力しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物支援をしています。一緒に買い物に行き、金銭の管理もご本人がしている方もいます。金銭管理をしていない人も、買い物はとても気分転換になるので、利用者の楽しみです。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をかけていただいています。また、ご自身でかけられない人には、スタッフがお手伝いして、お友達との連絡も取りあっています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭の周りの草花を居室に飾ったり、洗面台に飾ったり、ご利用者自身が自由にされています。また、寝る前の時間、ソファに自由に座り、歌のDVDを鑑賞されるのが皆様の楽しみになっています。	ひろびろとした居間にはテーブル4個とくつろげるソファやテレビが置かれ、たたみのコーナーもあります。午前中は全員で体操を行い、午後は手芸やおやつ作り、年末にはクリスマスのリースや門松づくりを楽しんでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをテレビ前に置きくつろげる空間になっています。また玄関横に畳のベンチスペースがあり、日当たりも良く利用者が集まり日なたぼっこを楽しんでいます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人・ご家族の希望にそったレイアウトを心がけています。個人の持ち物も多く、ご家族と共に見なれた家族の写真や絵などを壁に飾り、自宅にいるような安心感を大切にしています。	エアコンやベッド、カーテンは備え付けですが、タンスその他の品物の持ち込みは自由です。衛生状態には気をつけており、日勤の職員は毎朝居室の清掃を行い、天気の良い日の午前中にはふとん干しをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送れるよう、手すりの取り付け、また風呂場での滑らないような工夫。なるべくご自分で「できる」を大切に、安心して過ごせるようスタッフが気配りしています。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に家族参加がない 家族会など家族との交流がない	運営推進会議にご家族をお呼びするのはまだイメージが出来ないので、ご家族との交流の意味でクリスマス会を計画しました。	H24. 12. 23にグループホームみかみのクリスマス会を開催しました。ご家族をお呼びして利用者による演奏を聞いていただき、とても喜んでいただきました。	ヶ月
2	33	重度化や終末期に向けた事業所の方針はあるが、もう少し分かりやすいものがない マニュアルがない	ターミナルケアに関する方針を明確に文書にし、ターミナルケアに関する職員研修を新人・現任ともに行いターミナルケアに対する共通理解を深める。	事業所の方針を明確に文章化する。ターミナルケアの職員研修マニュアルをつくる。すぐに研修を行い、ターミナルケアに対する事業所の方針や職員の心構え、手順などをスタッフへ伝える。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。